

七月二日 つづき

十八時前、東北高速道を北へ走っている。うちのオンボロベンツで、今は馬場照道和尚が運転している。家内も駆け出しでの、サイの河原行。行っても仕方ないのは解っているが、行かねばならないのも知っている。今日中には辿り着くだろう。

二一時過仙台の先の長者ヶ原で食事。目的地までアト三時間ばかりかかるであろう。

七月四日

深夜一時半、世田谷に戻る。三日は精一杯の一日だった。いつか又、書くことができる日も来るだろう。今は書かない。仕事机に生けておいたくちなし、あじさいがもう枯れていた。十三時三〇分教室会議途中退席、十四時ダイヤモンドホテル、十五時三〇分首相官邸へ。新官邸には初めての訪問。古川貞二郎内閣副官房長官と面談。一時間以上時間をとっていただき、色々と相談に乗ってもらった。有難いことだ。旧首相官邸時代から何度かうつがっているが、この人物は誠に変不動である。官僚組織の頂点にありながらいつお目にかかっても体温の温もりを感じさせて、いかに人間らしさを失うことがない。権力の最中枢にいながらにして変わることのない温もりを感じさせてくれる力量、人徳の確かさを感じさせてくれるのである。私は国家を信じる事は出来ぬが、こういう人物人格識見は信じざるを得ない。どのようにして、

このような人物が生まれ、そして権力の中枢に持続し得たのか知りたいと思った。

世田谷村に帰り、いくつかの打合わせをこなす。

ゲーテはローマで色々と考え込んでいる最中である。しかも考え込み方が長く、私にはつまらない。

七月五日

十三時三〇分日左連会長池本氏来室。聞けばいつだったかの松崎町シンポジウム伊豆長八の世界での記録を、そのまま日左連の機関誌日左連に転載したところ、すぐに大阪浪花組よりクレームが来たとのこと。読み返せば藤森照信の発言「親方がピストル持って……」等々に少々過激な部分があり私もそれに乗っていたきらいがあった。浪花組としたら怒るだろうなと思った。すぐに藤森にFAXを入れた。すぐ謝ってしまおうという内容。こんな事が華々しい話題になったら、あんまりよろしくないからな。しかしこんな時にだけ日左連と会う事になってしまったのもいささかさびしい感じではある。

世田谷村市場ミーティング、卒論指導後世田谷へ戻る。今朝、田沢湖で買い求めた草花を何種類か屋上に植えたので少し雨でも降ってくれば良いのだけれど。